

つばめの里だより

第十九号
飛んで飛んでいって飛びまわるとツバメ

桜の花が咲き暖かくなると、スーイスーイと飛び交う黒い姿が目につくようになります。二つに分かれた長い尾が特徴的なツバメです。その形は男性の礼服『燕尾服』としてもおなじみです。

大部分のツバメはフィリピンや台湾など暖かい国で冬を過ごし、春から秋にかけて日本で繁殖をする夏鳥ですが、中にはシベリアで繁殖して冬の間は日本で過ごす『越冬ツバメ』という少数派もいます。

ツバメは民家の軒先に巣を作ることが多く、昔からツバメの巣がある家は縁起が良いなど言われており、商売繁盛や豊作の象徴ともされてきました。ツバメはあえて人通りの多い民家の出入り口に巣を作ることにより、外敵から身を守っていると言われています。通常あまり目にするのができない野鳥の子育てが間近で観察できることも、ツバメが愛着を持たれる要因のひとつなのでしょう。巣の近くを通った時、気配を察知したヒナ鳥たちが一斉にぱっと口を開くさまは、見ていてとても微笑ましいものです。巣は主に泥と枯草からできており、一度作った巣は次の年も補修しながら再び使うようです。最近では田んぼが少なくなりましたため、ツバメも巣材を集めるのが大変なのではないでしょうか。

ところでツバメが電線にとまっている姿はよく見ても、スズメのように地面に降り立つ姿はほとんど見たことがないのではないのでしょうか。ヒナにエサを与えるときでさえ、はばきながらヒナの口にエサを押し込むとすぐに飛び立つせわしなさは、実はツバメは飛翔能力がすぐれています。脚は短く歩行には適していません。したがってエサを捕らえるのも飛びながら空中で、水を飲むときでさえ水面をスレスレを飛びながら飲んでいくのです。思わず感嘆！ですよね。



ツバメのヒナは生まれた時は丸裸で目もあいていません。とにかく食べ食べ食べ20日位で巣立ちとなります。主なエサはカ・ハエ・ガ・ハチ・トンボなど。カ(蚊)っておなじみ、はいになるのかなー？

ツバメが低く飛ぶと雨が降るといいますが、低気圧が接近し湿度が高くなると湿り気が重くなったり羽虫が低い所を飛ぶようになり、それらをつかまえるためにツバメも低い所におりてくるからなんだとか。

「ツバメの巣」は中華料理の高級食料「燕の巣」は東南アジアに生息するアツツバメの巣で、その巣材のほとんどは唾液線の分泌物でつくられています。

「ツバメが低く飛ぶと雨が降る」といいますが、低気圧が接近し湿度が高くなると湿り気が重くなったり羽虫が低い所を飛ぶようになり、それらをつかまえるためにツバメも低い所におりてくるからなんだとか。